

科目名		作業環境管理学実習	
科目責任者	宮内 博幸	(作業環境計測制御学 教授)	
担当者	東久保 一朗	(安全衛生マネジメント学 教授)	
担当者	石田尾 徹	(作業環境計測制御学 講師)	
開講時期： 2年次		単位数： 4 単位	時間数： 90分× 60 回
● 科目の教育目標 一般目標 (GIO) 労働者の健康の保持ならびに社会の安全を目的として、作業環境において健康に危害を及ぼす要因を的確に予測し、認識し、評価し、管理する作業環境管理の専門的な知識と技術について、実習を通して学び理解する。また、新たな労働衛生管理手法であるリスクアセスメントに必要な個人曝露測定手法について、実習を通して学ぶ。 行動目標 (SBOs) 1) ガス状物質の作業環境計測技術について系統的に論じ、考察することができる 2) 粒子状物質の作業環境計測技術について系統的に論じ、考察することができる。 3) リアルタイムモニターの原理、応用について系統的に論じ、考察することができる。 4) 曝露アセスメント手法について系統的に考察することができる。 5) 危険有害性情報を作成できる。 6) 個人曝露濃度の評価結果を考察することができる。 7) リスク評価結果を考察することができる。 8) 環境改善のための対策を具体的に提案できる。 9) 作業管理の改善案を具体的に提案できる。			
● 評価方法		討議への参加度20%、プレゼンテーション内容30%、課題レポート等50%で総合評価する。	
● 参考文献		実習の中で必要に応じ紹介する。	

● 授業内容

回	内容	担当教員
1・5・9・13・ 17・21・25・29	将来、ハイジニストとしての活動につながる実践的な作業環境管理方法について学ぶ。そのために専門的な視野のもと、評価、改善、管理の観点より、各テーマについて実習を中心とした指導を行う。	宮内
2・6・10・14・ 18・22・26・30	計測技術についての知識と技術の向上のため、粒子状物質やガス状物質の化学物質に対する計測の実習を行う。今後、特に重要となるリアルタイムモニターを含めた個人曝露測定手法についても実習を中心として指導を行う。	東久保
3・7・11・15・ 19・23・27	ハザードを正しく把握する方法を習得し、対策措置も含めたSDSを作成できるレベルまでを目標とする。そのために基本的な作成手法を習得させ、多種の化学物質について、実習を中心とした指導を行う。	宮内
4・8・12・16・ 20・24・28	リスク削減における実践的な技術について、実習を中心とした指導を行う。	石田尾